

学生・教職員へのワクチン接種、PCR 検査を確保するための緊急要求

2021年8月19日

日本私立大学教職員組合連合

この間の政府のワクチン供給に関する情報は、二転三転し、大学生・大学教職員のワクチン接種は大幅に遅れている。特に私立大学は、医学部をもつ大学が少ないこともあり、一部の大学を除いては、職域接種の見込みは立っていない。

また、外部の病院等の協力を取り付けて、職域接種を申請した大学でも、突然ワクチンの供給を中断され、積み上げた準備作業は無駄となり、梯子を外された状態となっている。

現在、新型コロナの感染者数が再び急増しており、ワクチン接種が飛躍的に拡大しないかぎり、大学において、後期から対面授業を拡大することは困難である。学内での感染リスクを低減させる上で、各大学において PCR 検査や抗原検査を無料で行うことができる体制整備も必要である。

文科省は、昨年来、対面授業の実施を各大学に求めてきたが、感染リスクを下げて対面授業を行うためには、すべての学生に、ワクチン接種の機会が与えられなければならない。自治体が行うワクチン接種は、政府が費用を負担することになっており、公教育機関である大学も、当然政府が全額費用負担すべきである。先行して職域接種を実施する私立大学では1千万円から1億円を超える費用負担が見込まれている。私立大学には経費の一部を補助するにとどめるといった、差別的な取り扱いをすることがあってはならない。

また、ワクチン接種が普及しない段階では、PCR 検査、抗原検査についても、同様に、無料化して、積極的に推進すべきである。

以上のことから、以下4点について速やかに対応されることを要求する。

【要求事項】

1. 政府は、すべての大学生・教職員がワクチン接種できるよう、職域接種を希望する大学に、医師、看護師の手配と費用負担を行うこと。
2. 職域接種を実施できない大学の学生・教職員については、職域接種を行う他大学にクーポン券（接種券）を持参せずとも、学生証、身分証明書のみで参加できるよう手配し、周知すること。
3. 職域接種に伴う費用は、全額、国費で負担すること。
4. 大学構内で行う PCR 検査、抗原検査については、全額、国費で負担すること。